

第7期静岡県森林県民円卓会議報告書

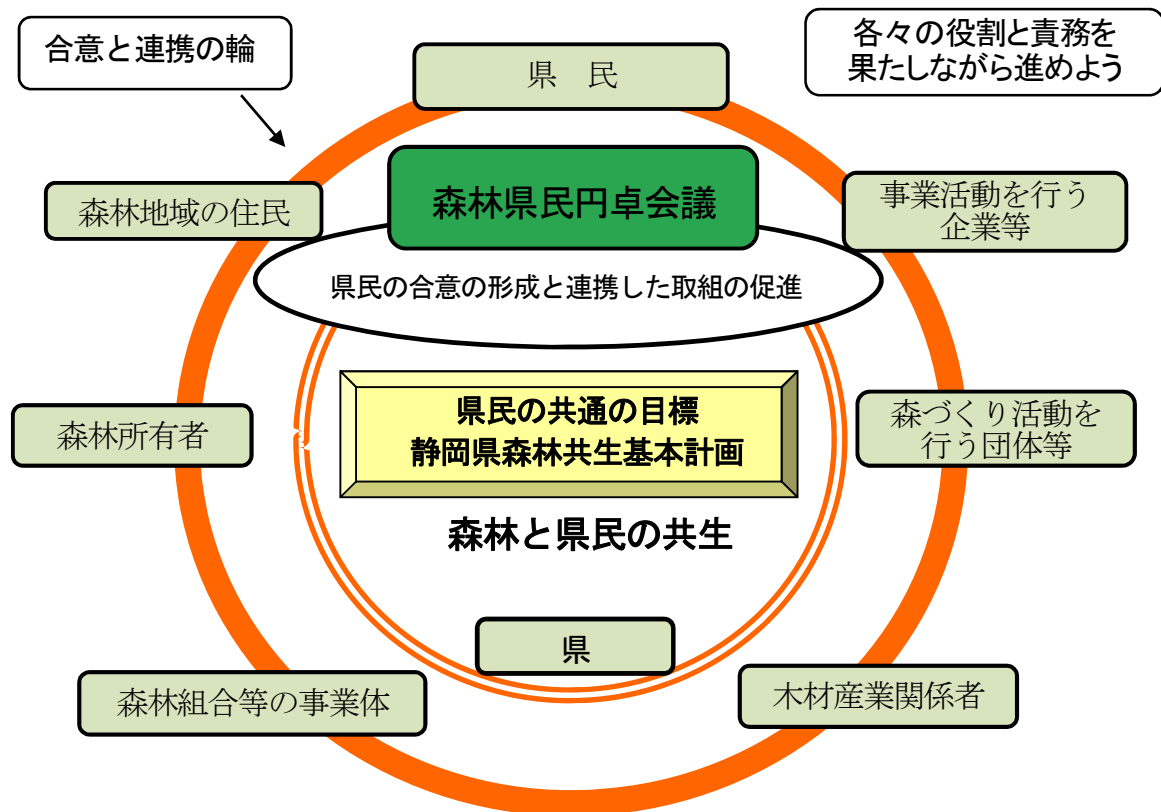
(平成30年7月～令和2年6月)



静岡県

森林県民円卓会議

- 森林との共生について、一部の人間だけに任せるのではなく、県民自身が、地域の森林の将来の姿や、それを実現するための各人の関わり方などを話し合い、合意形成を図るため、「静岡県森林と県民の共生に関する条例」第10条に基づき、森林県民円卓会議を設置します。



静岡県森林と県民の共生に関する条例

(森林県民円卓会議の設置)

第10条 県は、県民の森林との共生に関する合意の形成及び連携した取組を促進するため、森林県民円卓会議を置く。

2 森林県民円卓会議は、次に掲げる事務を行う。

- (1) 地域の特性に応じた森林との共生に関する事項について、地域の住民等の意見を収集すること。
- (2) 前号に規定する地域の住民等の意見に基づく地域の森林に関する課題及び提案について協議すること。
- (3) 前号の規定による協議の結果を森林との共生に関する基本的な方針としてとりまとめること。
- (4) 前号に規定する基本的な方針について、広く情報を発信すること。

第7期森林県民円卓会議

1 ねらい

- ・森林共生白書等を活用し、「森林との共生」（森林を守り、育て、活かす）に関する県内の取組状況を共有する。
- ・参加者各人のネットワークを活かした各地域の先駆的な取組を持ち寄り、森林・林業に関する課題や県民の行動に係る解決策について、検討・提案を行う。

2 期間

- ・平成30年7月～令和2年6月

18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2
第1期 H18.7～H20.6		第2期 H20.7～H22.6		第3期 H22.7～H24.6		第4期 H24.7～H26.6		第5期 H26.7～H28.6		第6期 H28.7～H30.6		第7期 H30.7～R2.6		

3 運営委員

地域名	氏名	備考
伊豆	田所 雅子	NPO 法人伊豆こどもミュージアム理事長 県環境学習指導員、自然観察指導員
富士	井戸 直樹	森のたね代表
静岡	今永 正文	プロセスコンサルタント WARAKU 代表 県・静岡市環境学習指導員
天竜	石黒 信子	県・浜松市環境学習指導員
全県	小嶋 睦雄	静岡大学名誉教授、農学博士

※所属・役職名は、平成30年7月の委嘱当時を記載。

4 第7期森林県民円卓会議開催概要

地域	開催日	取組内容	参加人数
伊豆	H30.11.11	テーマ：森のこれからを活かしていくために (1)体験プログラムー森遊びとハイキングー (2)ディスカッション	16人
	R元.11.4	テーマ：森遊びを体験しよう！！ (1)体験プログラムー森遊びとハイキングー (2)ディスカッション	12人
富士	H30.11.2	テーマ：富士地域における森林認証材の需要拡大に向けて (1)基調講演 (2)パネルディスカッション	59人
	R2.2.1	テーマ：鹿と森 人との共生 (1)意見交換	28人
静岡	H30.10.18	テーマ：市町と県が連携して効果的に進める森林整備 (1)ディスカッション	66人
	R2.1.16	テーマ：森林認証について語り合おう～オクシズの森林を未来へ・世界へ～ (1)ディスカッション	41人
天竜	H31.1.17	テーマ：竹林整備を考えよう 2019 (1)事例紹介 ・NPO法人等との協働による竹林整備について (2)意見交換	74人
	R元.11.24	テーマ：「森の恵みを子育てに」を考える (1)森の恵みを感じる体験プログラム (2)ディスカッション	80人
計	8回開催		376人

伊豆地域森林県民円卓会議の活動報告

開催日時	平成30年11月11日 10時から14時30分まで
会場	伊豆市湯ヶ島「天城遊々の森」
テーマ	森のこれからを活かしていくために
参加人数	21人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 体験プログラム NPO 法人伊豆こどもミュージアムとの共催により、天城国有林内の「天城遊々の森」を会場に、「森遊び」（木登り、木工作、森のブランコ）等を通して親子で森と親しみ、豊かな森が私たちの暮らしを支えていることについて共有した。 ● ディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・ 円卓会議の趣旨説明 ・ 森林の現状や森の様々な働き ・ 森林づくり県民税と森の力再生事業による森林整備の進捗状況 ・ 森林環境税（仮称）・森林環境譲与税（仮称）に係る情報提供 ・ 森林認証制度の説明、伊豆地域森林認証ネットワークにおけるFM認証取得、具体的な森林認証製品の紹介 ・ 意見交換
意見件数	10件（森林・林業関係9件、野生鳥獣関係1件）
発言者数	9人
意見概要	<ul style="list-style-type: none"> ● これからは、人が減る時代。少なくなる人数でこれまでのように森林を守っていかなければならない。人を育てるのも大事であるが、AIとかIOTとかを駆使し、補い合って進める体制作りが必要だと思う。 ● 森林にはしっかりとした税制システムがあるのが良いと思う。 ● 木材価格の低迷や人件費の高騰、シカ問題等あるが、「伐って売って植える」という循環を成立させていかなければいけない。 ● わさび経営もしているが、わさび栽培が出来るのは森からの水のおかげ。わさび畑にもシカ対策が必要である。シカ対策をしっかりやって、森林を循環させていくことが大事だと思う。 ● ドローンで上空から森林を撮影すると、木は丸いことに気づいた。調べてみたら数列的な配置になっている事も分かった。伊豆はドローンの飛行禁止区域が少なく、ドローン撮影のメッカになれる。 ● 若い人にとっては森林との接点が少ないが、ドローンがきっかけとなり森林に触れ合う機会が増え、その舞台が伊豆という事は十分あり得

と思う。

- シカ害の話が衝撃的だった。森もシカも無くなっては困る。心配になった。素敵な森がずっと続いて欲しいと思う。
- 勤務先でも環境への取り組みは重要なポイントとなっている。サステナビリティ（地球環境維持のための持続的開発）とか SDG s（地球環境を維持するための商品開発に係る 17 項目の目標）をモットーにした製品開発に取り組んでいる。
- 私が直接この森を守るために何かやっているという訳ではないが、水や空気を汚さない等循環に配慮したモノづくりに取り組むことにより、一企業人として貢献していきたいと思った。
- 普段の生活の中で森づくりに直接関わることはなかなか出来ないけれど、紹介してもらった森林認証取得商品を積極的に利用する等、間接的にでも出来るところから関わっていきたい。



開催日時	令和元年11月4日 10時から14時30分まで
会場	伊豆市湯ヶ島「天城遊々の森」
テーマ	森遊びを体験しよう！！
参加人数	12人
開催方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 体験プログラム NPO 法人伊豆こどもミュージアムとの共催により、天城国有林内の「天城遊々の森」を会場に、「森遊び」（木登り、森のブランコ、林内散策、生物の観察）等を通して親子で森と親しみ、豊かな緑が私たちの暮らしを支えていることについて共有した。 ● ディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・ 円卓会議の趣旨説明 ・ 森林の現状や森林との関わり方 ・ 森林づくり県民税と森の力再生事業による森林整備の取組 ・ 森林認証制度の説明、伊豆地域森林認証ネットワークにおけるFM認証取得、具体的な森林認証製品の紹介 ・ 意見交換
意見件数	8件 (林業関係1件、環境教育関係4件、認証関係2件、木材利活用関係1件)
発言者数	5人
意見概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 森で子供たちが豊かに遊ぶ体験を通じ森の大事さを体感として感じてもらいたい。住宅や木材生産の企業で進めている環境教育の取組を更に広げてもらいたいと思う。 ● 今一番大事なのは、この森に大勢の人が来て感じてもらう事。特に子どもたちに来てもらい、楽しんでもらう事。森で見たことや感じたことを更に家に帰って調べてみるとより深まる。次に来た時には季節も変わり新たな発見がある。この繰り返しが大人になった時に財産となり、森の大事さがわかるのではないか。 ● 森林認証製品とかを使って、もっとアピールしていけばよいのではないだろうか。企業の力を借りて、個人ではやりきれない所をカバーしてもらえると良いと思う。 ● 教育の分野で子どもには教えていくとともに、親に対しても再教育・再体験の機会が必要と感じる。 ● 主に河津町においてのNPO活動に携わり7年目になる。教育分野からのアプローチで山、海、川に関わっている。特に伊豆半島南部では過疎化、少子化が進んでいる。あと、15年後、20年後がどうなるか危機感を覚えている。子どもたちとフィールドワークを行い、親も巻き込んで活動を広めていきたい。

- エシカルな消費について、どのように子どもたちに伝えていくかは大人の責任。
- 共有林や区有林が世代交代等により維持管理が出来なくなってしまう現状がある。地域で守っていかねばならないが、行政にも力添え願いたい。
- 大工の伝統技術を継承していくとともに、CLT を活用した木造建築施設等の新しい技術を発展させることが大事。



富士地域森林県民円卓会議の活動報告

開催日時	平成30年11月2日 14時10分～16時30分
会場	富士宮市役所（富士宮市弓沢町150番地）
テーマ	富士地域における森林認証材の需要拡大に向けて
参加人数	59人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 円卓会議の趣旨説明 ● 基調講演「富士地域における森林認証材の需要拡大に向けて」 ● パネルディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・テーマごとにパネリストからの取組報告、提言等 <p>【パネリスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富士森林組合 代表理事専務 古川日出男 ・富士市森林組合 参事 佐々木洋司 ・富士宮木材協同組合 理事長 片岡 博昌 ・（一社）富士建築士会 牧野和弘 ・信州大学学術研究院（農学系） 教授 植木達人 ・森林県民円卓会議 委員（全県担当）小嶋睦雄 ・意見交換
意見件数	多数
発言者数	13人
意見概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 認証材の普及のためには、川上から川下までが連携し、認証材を安定供給できるシステム作りが大切。 ● エンドユーザーである一般市民は、市や県が推奨する制度であることを、もっとPRしてくれれば、制度に対する信用度が高まる。 ● 認証を受けた森林の薪を使ったり、地域の認証材で作られた設備に触れさせたり、実際に認証林を見せることにより、肌で感じさせることが大事。 ● 周知のための情報戦略を明確にしなければならない。



開催日時	令和2年2月1日 13時30分～15時00分
会場	乙女森林公園第2キャンプ場（御殿場市深沢 2696-2）
テーマ	鹿と森 人との共生
参加人数	28人
内容	<p>ニホンジカによる造林木の食害が林業経営の支障となっており、シカ柵等による防除、捕獲による個体数の低減などの対策が必要であることから、「シカと森 人との共生」について理解を深めてもらうため、意見交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・ 円卓会議の趣旨説明 ・ シカの生態、なぜシカが増えているか、シカによる農林業への被害の状況などを説明 ・ 意見交換
意見件数	多数
発言者数	7人
意見概要	<ul style="list-style-type: none"> ● ジビエは食肉流通量の3-5% ● 雄、雌、年齢、捕獲時期で味が違ってくるので、そのことを理解するシェフでないと肉を卸しにくい。 ● 肉として使えるのは、体重の20%程度。猟師としては、皮等も使うことを考えないと採算が合わない。 ● シカによる立木の樹皮剥ぎを防ぐため、間伐材で防止柵を設置している。 ● 猟師になることも考えたが、それだけでは食っていけないので断念している。 ● いつか自分の家の周囲も野生動物が歩き回るのでは、と危惧している。人が山に関心を持たなくなったこともシカが増えた一因、は納得した。 ● ジビエはどこで買うことができるのか。スーパー等で見ない。 ● ハンターを増やすのに何かしているのか。 ● 今は、ネットショッピングで生産者と繋がって珍しい野菜などを買うことができる(ポケットマルシェ)。ジビエもそういうものに乗せられないか。



静岡地域森林県民円卓会議の活動報告

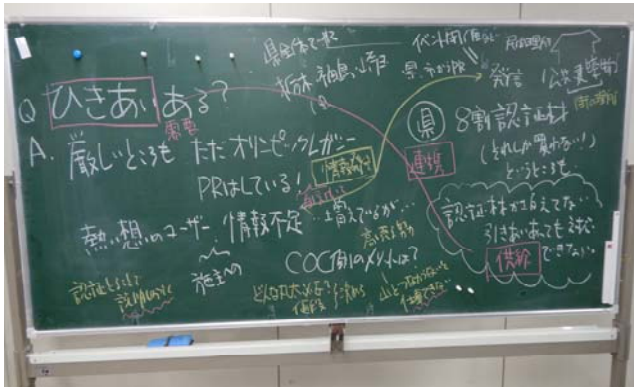
開催日時	平成30年10月18日 19時～20時40分
会場	県静岡総合庁舎7階第8会議室（静岡市葵区有明町2-20）
テーマ	市町と県が連携して効果的に進める森林整備
参加人数	66人
内容	<p>未来への森づくりタウンミーティングとの合同開催とし、森林（もり）づくり県民税のほか、オクシズの森林・林業のこれからについて、林業関係者を中心にディスカッションを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・ 円卓会議の趣旨説明 ・ 森の力再生事業の成果報告、森林環境税（仮称）の説明 ・ 意見交換1（森の力編） ・ オクシズの森林・林業の説明 ・ 意見交換2（オクシズ編） ・ まとめ
意見件数	15件
発言者数	7人
意見概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 森の力再生事業の継続と改良への要望と提案 <ul style="list-style-type: none"> ・ 森の力再生事業等により、雇用や荒廃地の復旧が促進され、県民共有の財産である森林の整備が進んでいる。森林が将来へと渡され、林家の収入源となる。 ・ 木材製品は、今後、他の工業製品や外材にも対抗することが可能である。 ・ 地域材の利活用が促進されることで、林業に携わる人の生活の安定に繋がることを期待する。 ● 獣害、気象災害を踏まえた森づくりへの提案 <ul style="list-style-type: none"> ・ 皆伐困難のもう一つの理由に、鳥獣被害がある。新植栽では、シカ、クマにより80～90%の食害被害が出るが、補植は所有者の負担となっている。防鹿柵等の単価も高く、設置は困難。これらへの補助の検討をお願いする。

- 森林情報、路網などの整備の要望
 - ・ 林道の拡充の必要性を、今回の台風 24 号災で改めて感じた。一層の路網整備をお願いしたい。
- 井川地区の森林整備・担い手確保への要望と提案
 - ・ 井川では近年、皆伐の実施例は無い。理由の一つに、労働者、担い手の減少がある。



開催日時	令和2年1月16日 19時～20時40分
会場	県静岡総合庁舎7階第8会議室（静岡市葵区有明町2-20）
テーマ	森林認証について語り合おう～オクシズの森林を未来へ・世界へ～
参加人数	41人
内容	<p>持続可能な森林管理と資源循環型社会の実現に向け、森林認証をテーマに、林業・木材業関係者及び地域住民から広く意見を伺いディスカッションを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・ 円卓会議の趣旨説明 ・ 森林認証制度と管内の取得状況の説明 ・ 事例紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・ 山田部会長（静岡市林研森林認証部会） ・ 滝浪理事長（静岡木材業協同組合） ・ 浅野氏（ナイス（株）） ・ 淀川部長（菊池建設（株）） ・ 意見交換
意見件数	発言7件、アンケート20件
発言者数	6人
意見概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 森林認証材の流通の状況、今後の利用拡大の可能性とその課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状では引き合いは厳しい。オリンピック後の社会的なレガシーの一つとして、木材調達に関して基準が設けられたので、引き続き継続していくのであれば、今後、引き合いも高まっていくと考えている。 ● 森林認証を普及するための情報発信について <ul style="list-style-type: none"> ・ 民間における木造建築は増えているが、一般の消費者への認証材に関する情報発信がまだまだ少ないと感じている。建設会社として消費者に対するメリットを説明できないことも課題であると感じている。 ● FM認証、COC認証を取得するメリット <ul style="list-style-type: none"> ・ 認証材はトレーサビリティが担保できる。製材、工務店、消費者まで産地を示せることが大きなメリットである。森林認証を取得して分かったのは、自分自身で森林管理の基準を明文化したことで、人に説明できるようになった。それを連携していくことで、説明の連鎖もできるようになる。

- 川上と川下の連携について
 - ・川上と川下が連携することが理想であるが、どうやってスムーズに行えるかが課題である。どうしても利益背反の関係であり、目的の共有が難しい面がある。



天竜地域森林県民円卓会議の活動報告

開催日時	平成31年1月17日 13時30分～16時
会場	大久保会館（浜松市西区大久保町2682-1）
テーマ	竹林整備を考えよう2019
参加人数	74人
内容	<p>タケノコ掘りや竹材採取に使われた竹林が放置され、荒廃が進むと周囲の耕作地に被害を与えたり、過密化により山地災害を招く恐れがある。</p> <p>竹林は、地域の暮らしと密接に結びつき、人為的な管理を必要としていることから、浜松市内での竹林整備にまつわる事例を紹介しながら、将来につながる竹林整備のあり方について意見交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 円卓会議趣旨説明 ● 事例紹介 <ol style="list-style-type: none"> (1) 竹林整備をきっかけに始まったおおくぼ里山育成会の森づくり (2) ボーイスカウト野外活動などのボランティアを募り整備した正泉寺の竹林整備 (3) 浜名湖の牡蠣棚の資材として竹材供給に取り組む浜松里山竹クラブ ● 意見交換
意見件数	6件
発言者数	6人
意見概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 竹林の伐採とその後の管理は、所有者には負担が大きい。行政の支援、整備を実施する業者をお願いしたい。 ● 伐採したタケの利用法としてはチップ化してマルチング材や堆肥として利用するのが現実的。 ● 整備を進めるためには所有者が、伐採後の竹林をどのように管理するのか将来像の共有が必要。 ● タケを資源として活用するための相談窓口を作りたい。 ● 地域ぐるみで取り組めば、地域主体のコミュニティビジネスを展開することもできる。 ● 有効利用するためには研究機関との連携が必要。 ● 荒廃した竹林をなくすのではなく、魅力ある竹山に変えるように意識を変えていきたい。 ● 放置竹林も若い竹林に生まれ変われば、有効に活用できる。 ● 台風の被災により竹林が道路をふさぐなど被害が長期化した。

- 森の力再生事業の要件を緩和させて、ライフラインを保全する仕組みを作ってほしい。
- 竹林整備の後継者育成、資金の確保が課題。
- 地域にネットワークをつくりたい。
- 竹林整備を進める機運をこの場限りで終わりにするのではなく、継続させたい。
- 大人だけではなく若い世代にも一緒に考えてもらおうと新しい発想が生まれるかもしれない。
- 荒廃竹林を整備する団体と、整備できずに困っている所有者をマッチングする仕組みを作りたい。
- タケの整備は地元の協力が必要。学校等と連携して整備を進めることも考えられる。
- 地域や所有者がどのように竹林整備を進め、どのような管理をするのか見極め、誰につなげて、どのように施業するのかシナリオを描くことが必要。



開催日時	令和元年11月24日 10時～14時
会場	獅子ヶ鼻公園下屋外ステージ（磐田市大平）
テーマ	「森の恵みを子育てに」を考える
参加人数	80人
内容	<p>親子を対象にした自然を材料にしたクラフト体験や子育てにおける森林との関わりについての意見交換を通じて、森林・林業への理解を深めるとともに、森林が幼少期の体験活動の場として有効であることを参加者で共有した。</p> <p>また、森づくり団体やイベント情報を提供し、継続参加の機会を作った</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 森の恵みを感じるプログラム体験 ● ディスカッション
意見件数	22件
発言者数	22人
意見概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 森の定義はなにか知りたい。 ● 子供を森に連れていきたいのは、自分が幼少期に体験したことを子供にも味合わせたいからで、教育には体験が必要と思うから。 ● 森林はだれのものか知りたい。 ● 森に勝手に入っていいのかわからない。子供が自由に遊べる森はどこにあるのか知りたい。



お問い合わせ先

●伊豆地域森林県民円卓会議事務局

賀茂農林事務所 森林整備課

〒415-0016 下田市中 531-1

☎0558(24)2082

東部農林事務所 森林整備課

〒410-0055 沼津市高島本町 1-3

☎055(920)2170

●富土地域森林県民円卓会議事務局

東部農林事務所 森林整備課

〒410-0055 沼津市高島本町 1-3

☎055(920)2170

富士農林事務所 森林整備課

〒416-0906 富士市本市場 441-1

☎0545(65)2202

●静岡地域森林県民円卓会議事務局

中部農林事務所 森林整備課

〒422-8031 静岡市駿河区有明町 2-20

☎054(286)9066

志太榛原農林事務所 森林整備課

〒426-0075 藤枝市瀬戸新屋 362-1

☎054(644)9243

●天竜地域森林県民円卓会議事務局

中遠農林事務所 森林整備課

〒438-8558 磐田市見付 3599 の 4

☎0538(37)2301

西部農林事務所 森林整備課

〒430-0929 浜松市中区中央 1 丁目 12-1

☎053(458)7234

●森林県民円卓会議の全体に関すること

森林計画課

〒420-8601 静岡市葵区追手町 9-6

☎054(221)2666



経済・社会・環境が調和した
「森林(もり)の都 しずおか」を実現します



ふじのくに
森林の都
しずおか